



にしきの つうしん
錦乃通信

Mamiya J.H.S School News

令和7年5月30日(金)
さいたま市立馬宮中学校
令和7年度 第3号

学校教育目標

未来を拓け ~自己の創造・生きる自信~

SINCE 1947

School Education Goal

Open your Future ~Self Creation ・ Confidence to live~

ほ
「褒めて伸ばす」

校長 **え とう しん すけ**
衛 藤 伸 介

今年度がスタートしてから約2ヶ月が過ぎようとしています。特に1年生はこの間、部活動が始まり初めての定期テストを経験し、中学校のペースに着いていくのが精一杯だったかもしれません。しかしながら、今やすっかり本校での生活に溶け込み、日々の教育活動に一生懸命取り組んでいる姿を見るにつけ、大変頼もしく感じています。

さて、年度当初の慌ただしさが一段落し、日常の学校生活が普通の状態になると、普段の生徒の様子がよく見て取れます。私が本校で感心することの1つに生徒がとてもよく清掃をするということがあります。本校は創立79周年を迎えた市内でも歴史ある伝統校の1つですが、年数の割にここまできれいな状態が保たれているというのは、正に毎朝生徒が一生懸命に清掃に取り組んでくれている賜物であると考えています。私は、清掃の様子を見かけた際には、その気持ちを素直に「いつもありがとう。よくやってくれて助かります。」といった言葉で生徒に伝えています。

その一方、家庭や学校では、ときには子どもを叱らなければならない場面があるかもしれません。例えば、子どもが自らの健康や安全を軽視する行動をとったときや故意に他人に迷惑をかける行為をしたときなど、大人として叱る必要があるでしょう。しかしながら、例えばテストの成績がよくなかったとか、うまくスポーツのプレーができていないとかいった場面はどうでしょうか。私は、このようなことで怒られて心から反省し行動が改まった生徒というのは、あまり見たことがありません。仮に大人に強く怒られて行動が変容したとしてもそれは一時的なものであり、「怒られるからやる」というのは、真に自ら内省し行動を振り返ることとは全く異なるものです。一方で子どもにとって（大人もそうだと思いますが）、褒められるのは実に気持ちのよいものです。テストの点数が全体的によくなかったとしても、例えば「理科は前回よりもだいぶ伸びたね。」とか「今回はテストに向けての努力がずいぶん感じられたよ。」とか、よいところを見つけてポジティブな言葉かけをしたいものです。大人も生徒同士も相手のよい面に目を向け、頑張った過程を評価する。そうすることで一人ひとりのやる気や成長へとつながっていくのではないのでしょうか。

終わりになりますが、これから気温の上昇とともに体調を崩しやすい日々が続きます。学校としては、生徒の健康・安全面を最優先に考えながら引き続き教育活動を推進してまいります。今後とも本校の学校運営に御理解と御協力を賜りますようお願いいたします。